［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日平成19年 10月 9E

【評価実施概要】

事業所番号	1071000184
法人名	有限会社 グループケアホーム ほほえみ
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	群馬県富岡市星田80-3 （電 話）0274-63-2966

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	

【情報提供票より】（ 19 年 7月 30日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 12年 7月 1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	10 人	常勤 5 人，非常勤 5 人，常勤換算 9.25 人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	1 階建ての 1 階 ～ 1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	40,500 円		その他の経費（月額）	
敷 金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 800 円			

（4）利用者の概要（ 7月 30日現在）

利用者人数		8 名	男性	0 名	女性 8 名
要介護1		2 名	要介護2	3 名	
要介護3		2 名	要介護4	0 名	
要介護5		0 名	要支援2	1 名	
年齢	平均	82.38 歳	最低	71 歳	最高 98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院・大竹外科胃腸科・大竹歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

富岡市の鏑川沿いにある明るいピンク色の壁の事業所である。利用者の立場に立った理念として、「自然のままの普通の生活を大事にする。」「利用者の歩んできた人生を大切にする。」「いつも家族であるように努める。」ことを掲げている。理念をふまえ、皆が楽しく過ごせるように日々の行動や表情から、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。歌を歌う場合でも、一人でも迷惑になれば他の場所で歌うなど一人ひとりの状況を大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	管理者と職員は、要改善事項である口腔ケアの実施に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価については、管理者・職員とともに検討を行い、評価について認識をし生活支援の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、意見交換を行っている。今後は、会議で自己評価や外部評価の検討・懸案事項の取り組み等を報告し、評価の効果をより高めるための改善経過のモニター役となってもらい、評価を活かすための取り組みを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族等に、月に1回支払いも兼ねて来所をお願いし、その機会に意見や意向を汲み取るよう心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域の行事やお祭りに参加したり、地域活動に利用者と共に参加して、地元の交流に努めている。また近隣の方に、緊急時の通報や避難誘導等をお願いしている。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の立場に立って「普通の生活を大事」に、「利用者の歩んできた人生を大切」にし、「いつも家庭であるように努める」と3つの理念を掲げ、その人らしく暮らし続けることを支えるサービス環境の理念はつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を理解しているが、理念についての話し合いや意識づけが行われていない。	○	理念は、事業所の基本的方針なので事務室に掲示し、意識付けを行い、日々のミーテイングを行うなかで、管理者と全職員は理念の共有に努めることを期待する。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃の散歩の際に、近所の方から野菜を頂いたりしている。また地域の行事やお祭りに参加したり、地域活動に利用者と共に参加し、地元の交流に努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、要改善事項である口腔衛生の実施に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、意見交換を行っている。評価事業の意義について説明しているが、自己評価や外部評価の結果の検討は行っていない。	○	運営推進会議では、自己評価や外部評価の検討・懸案事項の取り組み状況等の検討など、評価の効果をより高めるための改善経過のモニター役となってもらい、評価を活かすための話し合いになることを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月地域ケア会議に出席し、市町村職員と共に意見交換等を行いサービスの向上に取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の支払いは、家族に来所をお願いしている。その際に、利用者の日常の様子や健康状態、また金銭管理についてレシート等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応等の窓口を、利用案内に記載し説明している。またホーム内にも掲示している。来所時などの機会に、家族等の意見や苦情を積極的に聴くよう心がけ、意見があれば会議等で話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員によるケアの継続について考え、職員の離職は行わないようにしている。離職がある場合には、利用者のダメージを与えないようにすぐには知らせないようにしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は介護方法について話し合いを行う等個々のレベルアップを図っているが、全職員の研修や会議等参加の機会があまりなく、日々の利用者への食事介助・トイレ介助・歩行介助等の生活対応のなかで連絡をとりあっており、研修内容を報告する機会を設けていない。	○	職員一人ひとりが、チームの一員として研修や会議等の参加の機会をつくり、職員の技術や知識を身につけることや、全職員が研修を共有出来るように努められることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議での情報交換や職員交換研修などに参加している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が不安にならないように、1ヶ月の期間を設け、通うことによって、ホームの環境や雰囲気に慣れてからサービスを開始できるようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、「大変だね」「良くやるね」など、特に入浴介助や排泄介助の時に、いたわりやお礼の言葉かけが職員にあり、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、支えあう関係作りをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情から、暮し方の希望や意向の把握に努め、引継ぎ事項に記録し、カンファレンスにて支援方法を検討している。出かけることが多い利用者に対して、他の利用者が自分も出かけたいという希望を持つことを察知して、散歩や買い物などに連れて行くなど支援をしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、管理者、介護支援専門員、職員等関係者により会議や話し合いを行い、利用者本位のケアが出来るように、介護計画の作成をしている。介護計画は、利用者家族に確認をしてもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを行うとともに、月1回程度は利用者の状態や生活状況をふまえてアセスメントを行い、支援方針や方法について会議や話し合いを行っている。また状態に変化があれば、関係者との話し合いにより介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の重度化していく状況や医療処置を受けながらの生活の継続等を支援するため、家族の都合の悪い時は病院への送迎をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が、馴染みのかかりつけ医による継続的な医療が受けられるように支援している。また、かかりつけ医以外に2つの病院を協力病院としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を確認しながらかかりつけ医と話し合うなど、重度化した場合の対応や終末期のあり方について早期から話し合う体制が出来ていない。	○	できるだけ早い段階から重度化に伴う意思確認を利用者や家族と行うとともに、状況に応じ医師、看護師、家族もまじえて話し合いの意思確認書を作成し、関係者全員で重度化や終末期についての方針を共有することが期待される。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「大丈夫だよ。」「今日は元気だね。」など、さりげない言葉かけや対応を行い、利用者の尊厳を大切にしている。記録等は、個人情報の取り扱いに注意し、事務所で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、共有空間で過ごしたり、ソファに座ったり、テレビを見たり、その日その日を自分の意思で自由に過ごせるように見守っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を献立に取り入れたり、食材を話題にして食事が楽しめるようにしている。利用者と職員が一緒に片付けたり、テーブルを拭いたりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴としているが、汗をかいたり、汚れたときは、シャワー等を使用している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個々の能力に応じた、掃除の手伝いや洗濯たたみなど暮らしの中で役割を担い、楽しみになるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から外気浴が行えるように、玄関先に椅子とテーブルを用意してある。また近くの散歩だけでなく、利用者の行きたい場所への外出など、職員は後から安全面に配慮しながら見守り、利用者の意向にそって戸外に出られるよう支援をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は、鍵をかけないケアについては十分理解しており、日中はすべて鍵をかけないでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。緊急時の連絡網が掲示されており、また近隣の方には通報や避難誘導等をお願いしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、毎日バイタルチェックを行い記録して、好みのものや旬のものをメニューに取り入れ、食事摂取量や水分量に考慮して献立に活かしている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、電気の明るさやテレビの音量などが調節されており、丸いテーブルが配置され危なくないようゆとりをもった配置となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やたんす、テーブルなど利用者の使い慣れたものを持ち込まれたり、遺影や写真などが飾られ、利用者が居心地よく過ごせるような居室になっている。		